

【橿原市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等、近年における教育政策において、一人一台端末の整備と活用が重点的に推進されています。これらの政策を踏まえ、本市では、一人一台端末等を活用したICT環境で、従来の一斉授業中心の画一的な学びから、一人ひとりの個性や興味・関心に合わせた主体的な学びへの実現を推進します。また、単に知識を詰め込むだけでなく、思考力や判断力、表現力などの深い学びを目指します。そして、多様な学びの実現のため、時間や場所の制約を受けずに、様々な方法で学ぶことができる環境を整えます。

これらを一体的に推進することにより、学校教育で培った学びの姿勢やスキルが、生涯にわたって学び続けることができる基盤の構築に繋がると考えます。上記の学びの姿を実現するために、一人一台端末の整備をはじめとしたICT環境の整備を進めます。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、2020年度から2023年度までの4年間において、市内の小中学校に一人一台端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築することを目標としました。

GIGA第1期においては、市内の小中学校に9,650台の端末を整備しました。また、市内の小中学校に光ファイバー網を整備しました。ICT環境を整備したことに伴い、教員による学習教材の開発が促進されました。オンライン授業やオンライン教材を活用した学習も市内各校で実践されるようになりました。

一方、GIGA第1期の実施において、次の課題が明らかになりました。一つは、教員のICTスキル不足です。ICT端末を効果的に利活用できる環境整備と並行して、教職研修を進め、令和5年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙のICTを活用した学習状況に関する項目では、以下の結果となりました。

| 【ICTを活用した学習状況に関する項目】 ※週3回以上活用していると答えた児童生徒の割合 | | 小学校 | | | 全国との差 |
|---|---|------|------|------|-------|
| | | 全国 | 奈良 | 橿原 | |
| 29 | 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか。 | 62.4 | 64.7 | 67.5 | 5.1 |
| 30 | 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。 | 95.1 | 95 | 95.6 | 0.5 |
| 31 | 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)。 | 17.9 | 16.7 | 18 | 0.1 |

| 【ICTを活用した学習状況に関する項目】 ※週3回以上活用していると答えた児童生徒の割合 | | 中学校 | | | 全国との差 |
|---|--|------|------|------|-------|
| | | 全国 | 奈良 | 橿原 | |
| 33 | 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか。 | 61.8 | 55.8 | 52.9 | -8.9 |
| 34 | 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。 | 93.3 | 92 | 92.9 | -0.4 |
| 35 | 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらい(1時間)の時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)。 | 13.4 | 11.2 | 7.1 | -6.3 |

(令和5年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より)

「ICTを活用した学習状況に関する項目」において、小学校では全て全国平均を上回っています。一方、中学校では、3項目とも全国平均を下回っています。特に「授業でのICT機器活用」は約9P、「授業時間外のICT機器活用」は約6P下回るなどの課題が明らかとなりました。

| 【学習者を主体とした授業改善に関する項目の一部】※肯定的な回答の割合 | | 小学校 | | | 全国との差 |
|------------------------------------|--|------|------|------|-------|
| | | 全国 | 奈良 | 橿原 | |
| 32 | 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 | 63.7 | 61.9 | 60.3 | -3.4 |
| 33 | 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 | 78.8 | 76.5 | 79.1 | 0.3 |
| 34 | 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。 | 74.4 | 68.2 | 68 | -6.4 |
| 35 | 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 | 82.9 | 80.6 | 82 | -0.9 |
| 36 | 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 | 81.8 | 80.5 | 83.5 | 1.7 |
| 37 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。 | 77.4 | 75.3 | 74.4 | -3 |
| 38 | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。 | 81.9 | 78.9 | 78.9 | -3 |

| 【学習者を主体とした授業改善に関する項目の一部】※肯定的な回答の割合 | | 中学校 | | | 全国との差 |
|------------------------------------|--|------|------|------|-------|
| | | 全国 | 奈良 | 橿原 | |
| 36 | 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 | 62.1 | 57.2 | 49.4 | -12.7 |
| 37 | 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 | 79.2 | 72.9 | 70.4 | -8.8 |
| 38 | 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。 | 69.1 | 55.1 | 46.7 | -22.4 |
| 39 | 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 | 74.9 | 71.7 | 69.8 | -5.1 |
| 40 | 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 | 79.7 | 72.4 | 66 | -13.7 |
| 41 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。 | 69.2 | 64.5 | 58.9 | -10.3 |
| 42 | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。 | 69.9 | 64.1 | 59.5 | -10.4 |

(令和5年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より)

また、「学習者を主体とした授業改善に関する項目」においては、小学校は、7項目中5項目において、ほぼ全国平均並みか全国平均を下回っています。中学校においても、全項目において全国平均を大きく下回りました。

市内各校においては、本調査の趣旨及び調査結果を、全ての教員で理解・共有し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を軸として、児童生徒の学びの過程の質を高めることができるよう、学力向上推進プランに基づいた取組を継続することが今後も必要です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の視

点に立った授業改善の推進に親和性の高いICT端末の利活用は欠かすことのできないツールです。引き続き、ICT端末を効果的に活用した授業改善に取り組みます。

校内ネットワークにおいても、一部の学校で、校内ネットワークの帯域幅が不足するなどの課題がありました。GIGA第2期においては、端末の整備と並行し、校内ネットワークの整備も継続的に行います。

3. 1人1台端末の利活用方策

急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。現行学習指導要領は、知・徳・体におわたる「生きる力」を児童生徒に育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理されたところです。ICTを各教科等の指導において効果的に活用する際には、現行学習指導要領の趣旨に基づき、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、児童生徒や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる必要があります。

1. 1人1台端末の積極的活用

各教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性については、現行学習指導要領では、次のように示されています。「情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であり、各教科等の特質を生かし教科等横断的な視点から育成するものです。これを確実に育んでいくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつなげていくことが一層求められます。加えて、児童生徒が、今後一層人々のあらゆる活動に浸透していく情報技術を、手段として学習や日常生活に活用できるようにするためにも、各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが大切です。」また、「個に応じた指導の充実を図るに当たりICTを活用すること」としています。ICTを活用して個に応じた指導の充実を図ることは、基礎的読解力などの基盤的な学力の確実な定着に向けた方策の一つとして有効であると考えられます。

- 各教科等において育成すべき資質・能力を見据えた上で、各教科等のねらいやICTの特長などを踏まえて、ICTを適切に活用する場面を考えた実践を行う。
- 教員が学習指導の準備や評価のためにICTを活用したり授業においてICTを活用したりする
- 学習過程を踏まえ、効果的にICTを活用した学習活動を行う。
- 児童生徒が授業等で自らの意思でICTを活用する。
- 一斉に学習する場面で、児童生徒が学習の課題を明確に意識し、個別学習などのその後の学習活動における学習を深める。
- 個別学習を行う際に、その個別学習を踏まえた協働学習を行い、児童生徒が見通しをもって個別学習に取り組む。

2. 個別最適・協働的な学びの充実・

学校教育においては、学習者個人の多様な状況に応じることができる環境と、多様な他者とともに指導者も学習者もともに学べる場が必要です。学習者の実態にあった授業づくりのためには、指導者が適切に課題を提示したり、学習者が自らの関心・意欲に基づいて、解説を聞いたり、自分で調べたり、友達や先生に相談したりするなど、子どもたち自身がそれぞれの手法で活動を行うことが理想です。それらは、実態に応じた対応が必要で、こうすればいいという手法があるわけではないため、指導者がしっかりと考え、工夫する必要があります。

- AIドリルや授業動画等を活用して、個別最適な学びを進める
- 各教科等の学習と総合的な学習の時間を往還しながら、子どもたちが自ら設定した課題を解決するための活動を行う
- 学年やクラスに関係なく、一人一人の興味、関心に応じたプロジェクト型の探究活動を行う
- 情報活用能力の育成
- 生成AIの校務での活用

3. 学びの保障

1人1台端末をはじめとして学校におけるICT環境の整備が進みました。これからの学校教育においては、学校での学びをさらに充実させていくとともに、学校内外を問わず、それぞれの事情に応じて学ぶ機会を保障していくという観点で、学校や子どもたちの実態に応じたオンライン（オンデマンド）を積極的に活用していきます。

| 項目 | K P I | 現状値 (年度) | 目標値 (目標年度) |
|----------------|--|------------------------------|----------------------------|
| 1人1台端末の積極的活用 | 1人1台端末を週3回以上活用する学校の率 | 小：100% (R5) 中：66.7% (R5) | 小：100% (R8) 中：80% (R8) |
| 個別最適・協働的な学びの充実 | 児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 | 小：62.5% (R5) 中：50.0% (R5) | 小：100% (R8) 中：100% (R8) |
| 学びの保障 | 希望する不登校児童生徒への授業配信を実施している学校の率 | 今後把握 | 100% (R8) |